

寄居町公共下水道ストックマネジメント計画

寄居町 上下水道課

策定 令和3年3月

寄居町では平成4年に一部供用開始し、令和元年度末時点で管渠延長約74km、ポンプ場1箇所のストックを有しており、次に示す基本方針で保全を行う。

①ストックマネジメント実施の基本方針

【状態監視保全】

流下機能・揚水機能への影響が大きい等、重要度が高い施設・設備で、劣化状況の把握・不具合発生時期の予測が可能な施設・設備に適用する。

※状態監視保全とは、「施設・設備の劣化状況の確認を行い、その状態に応じて対策を行う管理方法をいう。

【時間計画保全】

流下機能・揚水機能への影響が大きい等、重要度が高い施設・設備であり、劣化状況の把握が困難な施設を対象とする。

※時間計画保全とは、「施設・設備の特性に応じて予め定めた周期（目標耐用年数等）により対策を行う管理方法をいう。

【事後保全】

流下機能・揚水機能への影響が小さく、特に重要でない施設を対象とする。

※事後保全とは、施設・設備の異常の兆候（機能低下等）や故障の発生後に対策を行う管理方法をいう。

②施設の管理区分の設定

1)状態監視保全施設

【管路施設】

施設名称	点検・調査頻度	改築の判断基準	備考
管きよ，マンホール，マンホール蓋 (主要な管きよ・腐食環境下)	点検は1回/5年の頻度で実施。 調査は1回/10年の頻度で実施 または点検で異状を確認した場合に実施。	管 渠：緊急度Ⅰ及びⅡ マンホールふた：健全度Ⅰ マンホール本体：健全度Ⅳ及びⅤ	
管きよ，マンホール，マンホール蓋 (一般環境下)	点検は1回/10年の頻度で実施。 調査は1回/20年の頻度で実施 または点検で異状を確認した場合に実施。	管 渠：緊急度Ⅰ及びⅡ マンホールふた：健全度Ⅰ マンホール本体：健全度Ⅳ及びⅤ	

※腐食の恐れの大い箇所とは、「段差や落差の大い箇所」、「圧送管吐出先」、「伏越し下流吐部」など。

【ポンプ場】

施設名称	点検・調査頻度	改築の判断基準	備考
沈砂池設備	1回/5～10年で分解調査、水抜き調査を実施	健全度2以下で改築を実施。	
汚水ポンプ設備	1回/5～10年の頻度で分解調査を実施。	健全度2以下で改築を実施。	
ポンプ場施設（躯体）	10年に1度視覚調査，20年に1度はつり調査を行う。	健全度2以下で改築を実施。	

2)時間計画保全施設

【管路施設】

施設名称	目標耐用年数	備考
管きよ（圧送管）	標準耐用年数	

【ポンプ場施設】

施設名称	目標耐用年数	備考
電気計装設備（ケーブル・配管類を除く）	標準耐用年数の1.5倍程度	

備考) 施設名称を「下水道施設の改築について（平成28年4月1日 国水下水事第109号下水道事業課長通知）」別表に基づき記載する場合には、大分類、中分類、小分類のいずれで記載してもよい。

3)主要な施設の管理区分を事後保全とする場合の理由

【管路施設（管きよ）】

【汚水・雨水ポンプ施設（ポンプ本体）】

【水処理施設（送風機本体もしくは機械式エアレーション装置）】

【汚泥処理施設（汚泥脱水機）】

③改築実施計画

1)計画期間 令和3年度～令和7年度

2)個別施設の改築計画 【管路施設】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
処理区・排水区の名称	合流・汚水 雨水の別	対象施設	布設年 度	供用年 数	対象延長 (m)	概算費用 (百万円)	備考
合計							

【ポンプ場施設】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
処理場・ポンプ場等の名称	合流・汚水 雨水の別	対象施設	設置年 度	供用年 数	施設能力	概算費用 (百万円)	備考
寄居第1中継ポンプ場	汚水	No.2汚水ポンプ設備	H17	15		7	
寄居第1中継ポンプ場	汚水	自家発電設備	H6	26	発電容量 15KVA	3	
合計						10	

④ストックマネジメントの導入によるコスト削減効果

概ねのコスト削減額		試算の対象時期
管路施設	約89百万円/年	概ね100年
ポンプ場施設	約2百万円/年	
合計	約91百万円/年	

備考) 標準耐用年数で全てを改築した場合と比較して、②に基づき健全度・緊急度等や目標耐用年数を基本として実施した場合のコスト削減額を記載する。